学校番号	201

平成 31 年度　公民科

教科	公民科	科目	現代社会	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「高校　現代社会」（実教出版）						
副教材等	「ニュービジョン現社」（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

現代社会に見られる多様な考え方を紹介し、先入観や操作的な情報に惑わされることなく自らの頭で物事を考える態度と力を養う。とりわけ、１８歳で有権者となるにあたり、現実社会で起こる事象に興味を持ち関わることが自分にとって楽しく役立つものであることを実感できるよう、多くの人やもの（資料等）に触れられるよう工夫したい。限られた時間のなかで項目をピックアップし、できる限り平板なアプローチとならないよう授業方法にもこだわりたい。

2　学習の到達目標

現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い，１８歳で大人としての判断ができるよう、必要な能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め，意欲的に課題を追究するとともに，社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加，協力する態度を身に付け，現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見いだし，社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに，社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断し，その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や,学び方を理解し,その知識を身に付ける。
評価方法	ワークシート 主題学習・発表 相互評価	ワークシート 定期考査 主題学習・発表	ワークシート 定期考査 主題学習・発表 自己評価 相互評価	ワークシート 定期考査 小テスト 主題学習・発表 自己評価

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	第1編　現代社会の諸課題 第1章　地球環境を考える	・資源の有限性について理解を深め，原子力発電の問題を例に，資源・エネルギー問題について多角的に考える。	○		○	○	a:・資源やエネルギー問題について自己とのかかわりで課題を追求している。 ・高度情報化社会の功罪について意欲的に追求している。 ・青年期の特徴と課題について，自ら主体的に学ぶ意欲をもっている。 ・国際政治は何を原動力として動いているのか，具体的に考えようとしている。 ・現状の政党や選挙制度を念頭に関心をもって理解しようとする態度が身についている。 b:・選挙制度と政党の現状の関係を具体的に考察している。 ・国際社会の成立経緯から国際政治の原動力を考察している。 c:・直近の国政選挙の情報を調査しその特徴をわかりやすく表現する方法を身につけている。 ・国連関係の記事を新聞やインターネット等で収集し，課題をまとめることができる。 d: ・民主政治における政党の役割と日本の政党や選挙制度の知識を身につけている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第２章　科学技術の発達と生命	・高度情報社会とは何かについて理解し，情報化の進展が社会に及ぼす影響について，新聞やインターネットなどを使って調べ，理解する。	○	○		○		
	第2編　現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章　青年期と自己形成	・人生の中で青年期はどのような意味をもつのか考え，青年期におけるさまざまな悩みと，それを克服するためにはどのようにすればよいか考える。		○		○		
	第2章　他者と共に生きる倫理	・主権国家とはどのようなものか，国際社会における国際法の役割と限界について理解する。	○		○	○		
	第３章　現代の国家と民主政治	・選挙制度はどのようなしくみか，また，どのような課題があるのかを理解する。 ・一人前の人間として自立するためには何をしたらよいか考える。		○	○	○		

		・伝統や文化と自らの行動様式や考え方との関係について考察する。 ・職業のもつ意味，社会に参加することの意義について書籍やインターネットで調べ，一人ひとりが社会づくりに参画していく必要のあることを理解する。 ・生涯にわたって学習していくことの意義を考える。					a：・資源やエネルギー問題について自己とのかかわりで課題を追求している。 ・高度情報化社会の功罪について意欲的に追求している。 ・青年期の特徴と課題について，自ら主体的に学ぶ意欲をもっている。 ・国際政治は何を原動力として動いているのか，具体的に考えようとしている。 ・現状の政党や選挙制度を念頭に関心をもって理解しようとする態度が身についている。 b：・選挙制度と政党の現状の関係を具体的に考察している。 ・国際社会の成立経緯から国際政治の原動力を考察している。 c：・直近の国政選挙の情報を調査しその特徴をわかりやすく表現する方法を身につけている。 ・国連関係の記事を新聞やインターネット等で収集し，課題をまとめることができる。 d： ・民主政治における政党の役割と日本の政党や選挙制度の知識を身につけている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

2	第4章　日本国憲法と国民生活 第5章　国際政治の動向 第6章　現代の経済社会と政府の役割 第7章　経済活動のあり方と国民福祉	・日本国憲法の成立過程や明治憲法との比較，天皇の地位の変化，日本国憲法の三つの基本原理について主体的に理解する。 ・日本の外交の基本方針を理解し，アジアの一員としての日本の役割について考える。 ・私たちの生活と密接にかかわる経済の基本的なしくみを理解し，資本主義経済と社会主義経済の特徴を理解する。 ・労働運動の展開と労働基本権について理解し，近年の雇用事情の変化について考える ・消費者は契約についてどのような自覚が必要かを考え，消費者問題に対する企業の責任や国の対策について理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○	○ ○	a：・憲法を主体的に理解しようとする態度を身につけている。 ・様々な労働問題に対して，自らの問題として関心をもって追求している。 ・契約のもつ意味や消費者問題に関心が高まっている。 b：・憲法の制定過程から，変更できるものとできないものを判断することができる ・労働三法などを踏まえて，現在労働をめぐる課題について追求している。 ・消費者問題について，行政の役割など多面的に追求している。 c：・自由権や平等権を侵害する事例を新聞やインターネット等を利用して収集している。 ・労働条件などにおける課題を資料を活用して説明することができる。 ・消費者問題について，様々なメディアから資料を収集している。 d：・日本国憲法の制定過程や基本原則について理解しようとしている。 ・労働条件などの変化を踏まえ，課題を理解し，知識を身につけている。 ・消費者保護の実態と消費者自身の責任について理解し，知識を深めようとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

3	第8章　国際経済の動向 第3編　共に生きる社会をめざして	・国連が中心となって制定している人権保障のための国際法を理解する。 ・南北問題の原因，発展途上国のかかえている問題について理解し，南北問題解決のために日本は何をすべきか考える	○ ○	 ○	○	○ ○	a：・人権保障のための国際法の普遍性を身近な事例にひきつけて理解しようとしている。 ・国際的な経済協力にはどのような方法があるか，具体的に考えようとしている。 b：・国連で採択される国際人権法が人類の福祉にどれほど役立つものであるかを考察している。 ・ＮＧＯ等を通じて私たちが発展途上国に対して今できることは何かを考察している。 c：・国際人権法の内容を具体的な事例からレポートして適切に表現している。 ・アジア諸国とのつきあい方を考察し，適切に表現している。 d：・国連が中心となって制定している人権保障のための国際法を理解しようとしている。 ・世界における経済的格差の原因と国際的な経済協力の必要性を理解しようとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。